

## 特定非営利活動法人 リライブ Re-Live 大阪府岬町

特定非営利活動法人 Re-Liveは、雇用の喪失による人口減少・少子高齢化、また、そこからくる耕作放棄地や空き家の急増などの町内の課題に対して、「リモコン農園」「障害者就労継続支援事業所の運営」「体験農園」など、町の資源を生かした様々な事業を通して、町の再活性化に取り組むNPO法人である。

今回は、理事長の松尾匡さんに設立の背景から現在の事業の状況、そして、今後の展望などについてお話を伺った。

### 1 大阪府岬町の概要

岬町は、大阪府の西南端に位置し、東に阪南市、南に和歌山市、そして、北に大阪湾を臨む、海沿いの町である。人口は約16,000人という小さな町だが、その分豊かな自然を多く有しており、町内には大阪府では唯一の自然海岸も残っている。そこから海を見渡せば、淡路島から明石海峡大橋、そして神戸の街並みまでもが一望でき、日没時には「日本の夕陽百選」に選ばれている美しい夕景を大阪湾に見ることができる、大阪随一の風光明媚な土地である。また、陸地に目を向けてみても、古墳群や町のほぼ中央部に位置する飯盛山などでハイキングを楽しむこともできる。主な産業は、漁業、農業、林業などの第1次産業である。



岬町の夕景

### 2 設立の目的・背景

岬町は、その経済を長らく関西電力の火力発電所に支えられてきた。しかし、10数年前に発電所が操業休止になると、町は第1次産業以外にほとんど産業がない、働く場がないといった状況に陥り、若年層は仕事を求めて町外へ流出するようになった。一方で、町の高齢化率は30パーセントを優に超えており、今後も少子高齢化、人口減少が進んでいくであろうと予想されている。そして、その影響もあり、町内では先祖代々受け継がれている田畑や家などが次の世代に受け継がれずに放置されるようになり、耕作放棄地や空き家が急増してきている。

そのような状況の中、「このままいくと、町が町じゃなくなる。何か自分にできることはないか」と強い危機感を覚え立ち上がったのが、NPO法人 Re-Liveの理事長、松尾匡さんだ。

岬町で生まれ育った松尾さんは、大学卒業後しばらくの間、大阪市内でサラリーマンとして商品の設計や開発、広報などを通し、「ものづくり」を仕事としていた。しかし、その中で、「今の使い捨てを前提とした大量生産・大量消費というシステムではなく、できるだけ循環型のものづくりやシステムを構築できないか」という疑問の下、独学でITを勉強し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の中でもより環境に優しい「リユ-

### 団体基礎データ

- ▶ 設立年：平成26年 ▶ 代表者：松尾 匡
- ▶ 組織：理事長1人 副理事長1人 理事1人 スタッフ2人
- ▶ 連絡先：〒599-0301 大阪府泉南郡岬町淡輪710-2  
TEL・FAX 072-425-0865  
MAIL matsuo@npo-relive.com  
URL http://npo-relive.com



ス”に焦点を当てたWEBアプリケーションを独自に開発した。そして、地元の岬町にて、株式会社を設立することとなった。

会社設立を機に岬町に戻った松尾さんは、商工会青年部や地元の人たちと町の話をする

度に、町が抱えるある大きな問題に気付かされることになる。「空き家や耕作放棄地がどんどん増えている。職がないから後継者が町外に出て行ってしまい、これらが上手く受け継がれていない」というものだ。この問題に直面したとき、松尾さんは、「自分の持っているウェブに関するスキルやものづくりに関するスキルを活用して、自分なりにできることはないか」と考えた。そこで考え付いたのが「リモコン農園」という事業だ。この事業を具体的な形としていく中で、障がい者福祉の法人の経営者であり、全国の福祉事業所のコンサルティングも行っている北野喬士さん、そして農業アドバイザーである河原照己さんなどのメンバーを加え、新たに設立したのがNPO法人 Re-Liveである。事務所として使用している建物も元々空き家であった古民家である。こうして松尾さんは、このRe-Liveでの事業を通じて、耕作放棄地や空き家の減少、そして雇用の創出、さらには岬町の再活性化を目指していくこととなった。



事務所内観



事務所外観

### 3 事業の概要

#### (1) リモコン農園

Re-Liveの看板事業の1つであり、最も特徴的な事業であるのが「リモコン農園」だ。リモコン農園の利用は、まず実際にRe-Liveで管理をしている農地を借りるところから始まる。そして、そこで栽培する野菜選びから栽培、収穫までを全てパソコンやスマホの画面上でインターネットを通じて行うこととなる。つまり、遠隔地にいながらゲームのような感覚で農業をすることができるのだ。もちろん現地では実際に作業をする必要があるが、それは、Re-Liveが運営している障害者就労継続支援事業所「いにしき」の作業スタッフが担っている。

利用者は、1つの畝（5メートル）を1年契約で借りることができる。料金は、月々払いで800円、年一括払いだと8,000円で、そこにトマト、ナス、ピーマンなどの中から2種類までの野菜を選び、